

今年の桜は早目にぱっと咲き、まだまだと油断している間にぱっと散って、見られなかった人もいないのではないのでしょうか？そんな人におすすめの本。

一年366日分の花と言葉がつまっています。

たとえば 4月18日「木蓮」 何かがとび立つようなリズム

7月 8日「車百合」ユリの名は「ゆれる」から。風を思わせる花です。

と言うふうに・・・。

ページをめくる度に気持ちがりんとし、背すじがすーっとのびる感じがします。道端で目にしたなんでもない一本の草花がこんなにも人の心を豊かにしてくれる・・・。あらためて身のまわりの自然に目を向けると大地にはたくさんの生き物が活動していて感動してしまいます。とても静かで美しさに息をのむような本です。

余談ですが、過日ボーイスカウト「春の野草を食べよう」の集いに参加しました。クローバーは甘みがあってとてもおいしい。すずめのえんどうは口に残り、出そうかなのみ込もうかなとこまりました。



お問い合わせは事務局まで

会
員
募
集
中

いつでも



図書館づくり勉強会2013ひだか」報告

年明け間もない1月20日(日)、日高村の新しい図書館づくりを考える会を、村立図書館との共催で開催しました。村内外から35人の参加がありました。

講師にお招きしたのは、愛知県田原市立図書館長の豊田高広さん。図書館の役割として、特に強調されたのは「課題解決」というキーワードでした。

これは、住民のみなさんが日々の暮らしの中で困っていることや、こうしたい、こうありたい、という願いに応えるために図書館があるという考え方で、ただ“本が並んでいる”だけの場所、と受け取られがちな図書館のイメージを変えるものだと思います。

田原市の図書館では、館内で地域の産業や文学に関する企画を行ったりするだけではなく、職員が介護施設を巡回したり、商店街やまちづくりに関わる人たちと協働で事業を立ち上げたりと、良い意味でアグレッシブ(攻撃的)な活動を展開しているようでした。

豊田さんのお話に対しての質疑応答と午後の交流会では、参加者の方から、地域住民が交流する場と静寂な読書の場とをどう共存させるか、という質問や、中心部の「本館」に対して遠隔地への移動図書館バスを配置する案、また、図書館づくりの最初の段階である構想検討委員会の立ち上げに関する意見などが出て、参加者の間で活発な意見交換がされていました。

図書館づくりは、まちづくりであるという視点を忘れるべきではない、という豊田さんの言葉に、参加した読もう会メンバーはあらためて図書館の重要性と、図書館をつくるために熱意と熟慮が必要であることをあらためて感じました。(Y)

朗読クラブ活動開始!

25年度朗読クラブの活動が始まります。活動日は第3水曜日に変更になりました。

午後4時~5時まで、図書館にじん畑で朗読の練習を行います。初めての人も、一年生でも大丈夫です。

みんなで声を出して、読んでみましょう。

いっしょに活動してくれる児童のみなさんを募集します。

いっしょに参加してくれる大人の方も大募集です!

★とき 毎月第3水曜日

(発表が近づいたら、毎週の練習になることがあります)

16:00~17:00

★ばしょ 日高村立図書館

(にじん畑)

※臨時の話し合いが入る場合は、図書館のHP内「日高読もう会」のお知らせに掲載

次回の実行委員会は、5月21日(火)19時から